

令和4年第3回陸前高田市議会定例会 一般質問通告要旨

第1号

伊藤 勇 一 議員

(碧い風)

答弁者 市長、教育長

1 本市の森づくりと全国植樹祭について

- (1) 全国植樹祭が本市で行われることの意義をどのように捉えているのか。
- (2) 県と本市の役割分担については、どのように計画しているのか。
- (3) 全国植樹祭を契機に本市における森とのつながりと将来的な森林の整備計画をどのように考えているのか。
- (4) 全国植樹祭について、全国に発信するとともに、一般企業からの社会貢献活動を呼びかける広報活動をする考えはないか。

2 教育現場における感染症対策について

- (1) 市内小中学校における感染症対策の現状と課題についてどのように捉えているのか。
- (2) 高田小学校では、1階の教室等にカビが発生したことから、教室の配置を変更するなどの対応をしているが、これまでの経過と現状はどのようになっているか。また、カビの原因にどのように対応すると考えているのか。

3 小学校の統廃合について

- (1) 陸前高田市立小中学校適正規模化実施計画において、各町に1校の小学校の体制を基本方針としてきた。本計画を策定してから10年以上経過するが、近年の児童数の減少から、統廃合の議論をしてはどうか。

- (2) 児童数の減少に伴い、複式学級の導入や教員数が少ない中で専門科目への対応をしているが、児童の学力への影響はどうか。
- (3) 小学校の統廃合に関して、地域住民や児童の保護者から意見や要望の聴取は行っているのか。また、どのように捉えているのか。

答弁者 市長、教育長

1 特色ある保育について

- (1) 幼児教育の充実のため、特色ある保育を積極的に取り入れようとする事例が増えているが、本市の取組はどのようになっているのか。
- (2) 本市には、公立と法人立の保育施設があるが、運営上の違いは何か。また、公立の保育所を運営する意義をどのように捉えているのか。
- (3) 子どもたちを幼児教育から小学校教育へとスムーズに移行させ、小1プロブレムなどの問題解決を図ろうとする幼保小連携に取り組む自治体が多いが、本市の考えはどうか。

2 児童生徒の通学について

- (1) 学校の統合やスクールバス運行の見直しにより、登下校に苦労している児童生徒もいるように感じる。市が運行するバスの利用なども検討してはと思うが、どのように考えているのか。
- (2) 児童生徒の安全な通学のため、信号機の設置や通学路の整備が行われているが、整備の現状と今後の計画はどうか。

3 小中学校校舎について

- (1) 東日本大震災以降も使用されている小学校校舎は、必要に応じて改修等を行なうが利用されているが、建て替えを含めた抜本的整備についてどのように考えているのか。

- (2) 統廃合などにより廃校になった校舎は、様々な形で利用されてきたが、今後の活用についてどのように考えているのか。また、解体が必要となる校舎も今後出てくると考えられるが、将来的な見通しはどうか。

答弁者 市長

1 本市の東日本大震災後の人口の推移について

- (1) 東日本大震災後の10年間の急激な人口減少と年齢別構成比、そして単独世帯が増加した世帯構成をどのように分析しているか。
- (2) 現在の人口減少の状況は、東日本大震災後、生活再建を第一として行われた土地区画整理事業と防災集団移転促進事業の進捗と無縁ではないと考えられるが、どのように分析しているか。
- (3) 土地区画整理事業では、事業のスムーズな進捗を図るため、計画途上において、一部の計画事業区域を防災集団移転促進事業との併用とし、多くの世帯が防災集団移転促進事業を選んでいる。この計画変更が本市の人口動向に影響を与えたものとするが、どのように分析しているか。
- (4) 人口減の現状から推測すると、本市の「まち・ひと・しごと総合戦略」が十分に機能していないと思われるが、市はどのように分析しているか。

2 土地区画整理事業及び防災集団移転促進事業で生じた土地の利活用について

- (1) 復興事業が終了した現在の利活用の状況はどうか。
- (2) 各地区で作成したマスタープランに基づいたまちづくりの進捗と今後の見通しはどうか。

小 澤 睦 子 議員
(翔 成)

答弁者 市長、教育長

1 住民福祉の向上に資する重層的支援体制の構築について

- (1) 本市においては、制度狭間や複合的な問題を抱える方から市へのファーストコンタクトは、どのようにとられているのか。また、そのファーストコンタクトに至るまでの課題は何だと把握しているのか。
- (2) 「引きこもり」に対するアプローチがどのような手法で展開されているのか。また、そのアプローチにおける課題は何か。
- (3) 本市においては、不登校の実態をその先を見通してどのように情報共有され、課題解決につながっているのか。
- (4) 重層的支援体制の構築において、制度狭間を含め、幅広い問題を扱う相談支援を担う人材育成がどのように進められ、どのような窓口や現場で相談支援を担っているのか。

2 認知症施策の推進について

- (1) 「認知症ケアパス」の作成において、円滑なサービス提供につながるように、認知症の御本人や御家族の状況を的確に把握するために、どのような手法を用いているのか。また、現状の課題は何か。
- (2) 認知症において、在宅でのケアを選択した場合、認知症当事者の生活の質がどの程度確保されているのかを客観的にどの立場の方が判断し、どの段階までを在宅での介護が妥当であるとしているのか。
- (3) 本市における若年性認知症の有病の実態をどのように把握しているのか。また、

その該当者に対して、どのような支援がなされているのか。

- (4) 本市における平成 29 年度から 5 年間の認知症地域支援推進員の配置の効果は何か。また、課題は何か。

答弁者 市長、教育長

1 市政の環境配慮策や節約術について

- (1) 本市の新エネルギー設備導入促進事業の実績はどうか。
- (2) 市内の公共施設では、太陽光発電設備やチップボイラーを設置しているが、発電量や能力、二酸化炭素発生抑制量や費用削減効果はどうか。
- (3) 市庁舎での職員による徹底したゴミの分別や節電などが日々、行われている。これは環境に配慮しつつ、維持管理費の削減にもつながってくると思うが、その効果をどのように捉えているか。また、本市の各種施策において、同様に環境への配慮や経費削減の工夫はどうか。
- (4) 本市では市長の専用車や専属運転手を廃止して20年目になるが、現在の状況はどうか。また、他にはどのような市財政の節約となるような取組を行っているか。

2 障がい者雇用について

- (1) 本市の「ノーマライゼーションという言葉の知らないまち」の取組の現状はどうか。
- (2) 障がいのある人たちの工賃の現状はどうか。また、障がいのある人たちに対する今後の雇用対策はどうか。

3 子育て支援策の推進について

- (1) 本市の就学援助制度の活用状況はどうか。

(2) 就学援助制度の対象は、給与収入が生活保護基準額に自治体が定めた係数により算定した金額未満の世帯が対象となるが、本市の就学援助制度には、どのような算定方法を用いているか。また、本市の同係数の引き上げが必要と思うがどうか。

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響で収入減の子育て世帯の中で、特に多子の世帯では学校給食費の負担が重くなっている。子育て支援として、学校給食費の負担軽減についてどのように考えているか。

4 本市の漁業支援策の成果について

(1) 震災後の新規漁業者数の推移はどうか。

(2) 本市水産業の水揚げ金額の推移はどうか。

(3) 本市の漁業支援策の成果をどのように捉えているか。

大 坪 涼 子 議員
(日本共産党)

答弁者 市長

1 新型コロナウイルス感染症「第7波」から市民の命を守るために

- (1) 市民の誰もが感染の危険にさらされている事態になっている。現在の気仙管内及び市内の感染状況や、陽性になった場合の自宅療養、病床使用率などの実態はどのようなになっているのか。
- (2) 最近の感染急拡大によって大船渡保健所の業務が増え、感染確認や濃厚接触者の把握、陽性者への指示などに大きな支障が生じているようだが、市ではどのように捉えているのか。
- (3) 市内でも感染状況が深刻になる中、県及び大船渡保健所と連携を取りながらも、本市としてやるべきこととして、検査体制の支援、陽性者への指示、自宅療養者及び家族への情報提供や市民に対する感染予防徹底への協力要請を行い、市民と行政が一体となって感染急拡大に立ち向かうべきだと思うが、市の考えはどうか。

2 市民に優しい市内公共交通の取組について

- (1) 移動困難者の社会参加や通院などへの支援として進めてきたふるさとタクシー助成事業は、対象地域が市内全域に拡大され、好評のようだ。これまでの実施地域も含めた、助成券の交付実績と利用状況はどのようなになっているのか。
- (2) 今年度からグリーンスローモビリティも本格運行となっている。道の駅への来訪者のまちなか周遊の手段としても注目されているが、観光周遊と市民の日常生活における新たな移動手段としての利用実績と利用者の反応はどうか。
- (3) 既存の市内の路線バス・生出線において、市内民間会社への運行委託やダイヤの見直しなど大きく変更となったようだが、その利用状況の変化はどうか。また、

本市の生活交通路線の確保に向けた今後の課題をどのように捉えているのか。

3 「はまってけらいん、かだってけらいん」運動の推進について

- (1) 市内各所にのぼり旗が見られる「はまかだ」運動は、震災直後に、「みんなで野菜づくり」「みんなでお茶っこ」などの呼び掛けで始まったと記憶している。高齢化が進む中で、その役割はさらに大切になっていると思うが、改めてこの運動の意義と役割についてどのように考えているのか。
- (2) 既に10年近い活動実績となっているが、「はまかだ」運動の市内各所における取組状況はどうか。また、その中で生まれた経験や、コロナ禍での実施などから見てきた今後に向けた課題について、どのように捉えているのか。

伊 藤 明 彦 議員
(新志会)

答弁者 市長、教育長

1 市長の政治姿勢について

新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらないことや、ロシアによるウクライナ侵攻が長期化し物価上昇に歯止めが掛からないなど、国内外の課題が山積する中、市長の任期満了まで半年を切った。

- (1) 故安倍元総理の国葬儀が実施される予定であるが、自治体等への通達文書は届いているのか。また、本市としての対応はどうか。
- (2) 物価高騰や長引くコロナ禍によって苦勞をしている市民や個人事業者、中小企業等への新たな支援策はないか。
- (3) 3期目の市長任期もあと5か月となったが、これまでの総括と次期市長選挙への思いはどうか。

2 市立博物館の開館と運営方針について

市立博物館は文化庁の指針に基づき、工事完成後から二夏を経過させる枯らし期間を経て、間もなく開館の予定となっている。

- (1) 博物館の開館予定日はいつか。また、開館記念式典はどのように執り行うのか。
- (2) 運営方針についてどのように考えているのか。

答弁者 市長、教育長

1 古川沼の利活用について

- (1) 東日本大震災から11年5か月経過したが、本市では未だに202名が行方不明となっている。平成28年第1回定例会における「東日本大震災津波による行方不明者の古川沼及び広田湾の海底再捜査について」の請願採択後6年半が経過しようとしているが、現状と今後の方向性はどうか。
- (2) 高田松原津波復興祈念公園事業が完了した。県内最大の天然湖沼である古川沼の再生も行われたが、その位置づけをどのように考えているか。
- (3) 古川沼はかつて市民の憩いの場であった。市民にとっての憩いの場という視点から古川沼の利活用をどのように考えているか。
- (4) 高田松原津波復興祈念公園内にある再生された県内最大の湖沼は優れた観光資源である。交流人口拡大に向けた古川沼の利活用をどのように考えているか。

2 「生理の貧困」について

- (1) 経済的な理由等から生理用品を十分入手できないことを指す「生理の貧困」という言葉が広がっている中、何らかの方法で生理用品の無償配布を行う自治体が増えている。本市として「生理の貧困」についてどのような認識を持っているか。
- (2) 「生理の貧困」は生理用品が買えないという経済的な問題にとどまらず、性教育も含めた知識の貧困、生理のことを家族に話せないなど家族関係における問題等を内包していることもある。学校教育現場における現状はどうか。また、「生理の貧困」について、どのように捉えているか。

- (3) 「生理の貧困」は女性の健康で衛生的な生活を脅かす基本的人権の問題とも言われている。東日本大震災の時、生理用品が十分に手に入らず心身ともにつらい思いを強いられた女性がいたという事実を知る本市として、生理用品の配布についての考えはどうか。

答弁者 市長、教育長

1 観光行政について

(1) 新型コロナウイルス感染症対策の行動制限が行われない夏が過ぎたが、道の駅高田松原、東日本大震災津波伝承館を含む高田松原津波復興祈念公園及び高田松原海水浴場への観光客等の入込状況をどのように捉えているか。また、道の駅は市の産業から見ても大きな販売拠点であり、今後の商品開発などに向けた貴重なデータが得られると思うが、観光客等の購買状況や周遊ルートの把握状況はどうか。

(2) このところ地震が増えているように感じるが、他県からの利用が多い道の駅高田松原における避難体制はどのようなになっているか。道の駅をはじめ高田松原津波復興祈念公園からの避難には国道45号を利用することとなっているが、国道への出入り口は一か所しかなく、避難者にとってボトルネックとなりかねないと懸念されていた。このことについて検討するとのことであったが、その進捗状況はどうか。

(3) 待望の市立博物館が間もなく開館を迎え、中心市街地への誘客が期待される。利用者の駐車場はアバッセ前の公共駐車場とのことであるが、アバッセ前駐車場への出入り口が使いにくいとの指摘がかねてより市民から上がっている。博物館の開館により利用が増えることで今まで以上に不便をきたす恐れや交通事故等が危惧されるが、どのような対応策を考えているか。

2 広域での観光施策について

(1) 交流人口拡大策はコロナ禍でなかなか積極的にはできないのが現状であるが、ポストコロナを見据えて交流人口拡大策を今から準備する必要がある。市独自の魅力の周知は大切だが、特に教育旅行の誘致を視野に入れた、より幅広い観光交

流の推進のため、気仙 2 市 1 町に気仙沼市を含めた「気仙は一つ」という考えはないか。

(2) 一関市を起点としたさらに大きなエリアで観光施策に取り組む必要があると思うがどうか。

(3) 本市を含む各地域と仙台を結ぶバス路線の運行による広域的な観光振興に向けての市の考えはどうか。

3 保育環境、子どもの教育及び通学時の安全確保の取組について

(1) 幼保一元化や少子化によって子どもの保育環境は大きく変わってきていると報道されているが、本市の保育の現状はどうか。また、本市には市立の保育所と法人立の保育園があり、それぞれ特色を持った保育が行われていると理解しているが、市ではどのように認識しているか。

(2) 発達障害を抱える子どもたちが増えているとの報道があるが、本市の現状はどうか。また、発達障害の原因をどのように捉え、一人一人に対するフォローはどのようにしているか。

(3) 子どもたちは様々な個性を持っている。一人一人の発達・成長を支え、全ての子どもたちの良さや可能性を伸ばすために、市ではどのような取組をしているか。

(4) 子どもたちの通学時の安全確保には地域の人たちの協力が不可欠であり、今も多くの市民ボランティアによって成り立っている。ボランティアの高齢化も進む中、子どもたちの登下校の安全をどのように考えているか。また、突然の雷雨など様々な自然の変化への対応についてどのように考えているか。

答弁者 市長

1 令和3年度決算と今後の財政運営について

- (1) 令和3年度決算における主要な財政分析指標に基づいて評価した場合、本市財政の現状はどうか。特に、経常収支比率の数値の高さは誤解されやすいが、本市の令和3年度決算及び事業実績から見てどのように分析しているのか。
- (2) 本市財政は、復興期から平常時の状況に移っていくと思うが、令和3年度決算の実績から見て、公共施設の維持管理費の負担をどのように見通しているのか。
- (3) ふるさと納税を活用した事業は、どのように展開されているのか。また、ふるさと納税は本市の重要な財源の一つになっているが、その活用する基準と考え方はどうか。
- (4) 国民健康保険特別会計決算の収支の状況はどうか。また、先進的に実施している18歳未満の被保険者の均等割額の減免と、国の未就学児の均等割額の2分の1補助の実績はどうか。

2 コロナ禍の下での市内の保育事業について

- (1) 市内での感染が急速に広がっているが、市内の保育施設や学童保育施設の保育事業に対する影響についてどのように把握しているのか。
- (2) 保育事業に従事する職員のPCR検査等の定期検査の徹底がこれまで以上に重要と思うが、市内の各施設における実施状況はどうか。また、検査実施をはじめ、コロナ禍で困難を抱えている各施設に対する市としての支援体制はどのようなになっているのか。

- (3) 保育の現場は、コロナ禍の緊張した日々の中で献身的に奮闘されている職員によって守られていると思う。今後の保育体制拡充や待遇改善などへの考えはどうか。

3 特色ある地元産品の活用戦略について

本市では市内店舗での地場産品の活用と地域内循環の促進を重視している。

- (1) 県立高田高等学校海洋システム科が作っている「サバの缶詰」は、高校生による地元資源を活用した地場産品になっている。また、「おやつこんぶ」は、販売実績で15年間も愛されているヒット商品であり、道の駅での販売やふるさと納税のお礼品として提供されているが、どちらの地場産品も地元での身近な消費にはつながっていないように思う。市内での積極的な活用戦略の考えはないか。

答弁者 市長、教育長

1 ふるさと納税について

- (1) がんばっぺし応援寄附金のこれまでの受入件数及び受入額の実績とその推移はどうか。また、今後の推移をどう見込んでいるか。
- (2) これまでの受入を通じて把握した寄附者の属性や意向等を含め、他自治体と比較した本市の特徴をどう捉えているか。また、それを踏まえ、今後どのように受入促進に生かしていくのか。
- (3) 返礼品に対する寄附者の嗜好と満足度をどのように捉えているか。また、それを踏まえ、デジタル技術の活用も含めた今後の効果的な返礼の在り方についてどう考えているか。
- (4) これまで寄附金をどのような事業に充当し活用しているか。また、活用に当たり課題をどのように捉えているか。
- (5) 受入額の実績や事業への活用状況をどのように公表しているか。また、今後より効果的な公表の在り方をどう考えているか。

2 少子化に対応した持続的で活力ある学校運営について

- (1) 児童生徒数が減少する中で、活力ある学校づくりに向け、学校運営協議会を含めた地域との連携による学校運営をどのように考えているか。
- (2) 市内小中学校にいわゆる「ふるさと留学」を導入し、全国から児童生徒を募集する考えはないか。また、導入に当たりメリット及びデメリットをどう考えているか。

(3) 県教育委員会と連携の下で県立高田高等学校にいわゆる「ふるさと留学」を導入し、全国から生徒を募集する考えはないか。また、導入に当たりメリット及びデメリットをどう考えているか。

(4) 県教育委員会と連携の下、市内中学校及び県立高田高等学校による「中高一貫教育」を導入する考えはないか。また、導入に当たりメリット及びデメリットをどう考えているか。

3 新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営について

(1) 学校における新型コロナウイルス感染症対策の基本的な考え方はどのようなになっているか。

(2) 児童生徒及び教職員等の感染が確認された場合における児童生徒の出席停止及び臨時休業の取扱い基準はどのようなになっているか。

(3) やむを得ず登校できない児童生徒への学習指導など、学校教育活動の継続性はどのように確保されているか。また、課題をどのように捉えているか。

(4) 感染状況等を踏まえた修学旅行や就業体験、部活動等の実施の現状はどうか。また、課題をどのように捉えているか。

答弁者 市長

1 景観がもたらす効果について

- (1) 陸前高田市景観条例第 1 条（目的）の文中より、「市民、事業者等及び行政の協働による地域の特性を生かした良好な景観」とは、具体的にどのようなものを指しているのか。また、本市における景観条例等の施行による現状と景観法が求めている目的とはいささか乖離していると思われるが、どのように捉えているか。
- (2) 景観条例及び屋外広告物条例が制定されて以降、本市の景観に対しどのような影響を及ぼしたと捉えているか。また、市民等からどのような声が寄せられているか。
- (3) 現在、重点景観地域内に整備されている、「道の駅高田松原」は重点道の駅として、かつ、復興祈念公園周辺地区の中心的役割をも担い、多くの来訪者を招き入れている。一方では道の駅としての機能を十分に果たしていないのではないかと、の声も耳にするが、市ではどのように捉えているか。
- (4) 今泉地区内にある岩手県指定有形文化財「旧吉田家住宅主屋」は誘客コンテンツとして大きく期待するが、その周辺はさらに景観に配慮する必要があると思われるかどうか。
- (5) まちなかの魅力を高めるための具体的行動として、市民・事業者・行政等それぞれの取組状況はどうか。また、今後の方針等はどのように考えているのか。

2 公共施設の利活用及び維持管理について

- (1) 新型コロナウイルス感染症等の影響により、本市施設を活用したイベント等の開催が見送られた事業をどのように捉え、開催した場合の効果をどのように分析

しているか。また、今後の方向性をどのように考えているのか。

(2) 本市公共施設の利活用について、施設管理受託者や利用者、市民の皆様の反応をどのように捉えているか。また、課題と対策についてはどうか。

(3) 本市に再建された公共施設の中には、施設全体のイメージや周辺との調和などから使用に関して設計上の制約があるようだが、利用者の利便性を考慮すると施設の仕様変更等の検討が必要になると考えるがどうか。

答弁者 市長、教育長

1 確かな学力を育む計画と生涯にわたって学び続ける環境について

- (1) 少子化時代において、平均値を用いての計画目標では実態を正確に把握できない可能性がある。市の見解はどうか。また、確かな学力の習熟を測る指標として個別化されたものなど、新たな指標検討の必要性についてどのように捉えているのか。
- (2) GIGAスクール構想での一人一台タブレット端末を導入したことにより、教育の個別化については現状をどのように評価しているのか。また、課題と今後の展望は何か。
- (3) 20代から40代までの若手現役世代の生涯学習におけるニーズを市はどのように把握しているのか。

2 介護保険制度改正に伴う本市の政策について

- (1) 本市の人口動態の予測から、介護業界の人手不足の状況はどのように推移していくと考えられるのか。また、人手不足の要因としては新規就業者数、離職者数、復職者数のうち、どの要因に本市独自の課題があると捉えているのか。
- (2) 令和3年度の介護保険制度で改正ポイントの一つである「医療・介護のデータ基盤の整備の推進」について現状の進捗はどうか。また、計画期間中に到達すべき状態をどのように捉えているのか。
- (3) 介護業界において、今後、事業者が参入しやすくなるためには、市として現状の問題点をどのように分析し、どのような施策が必要と捉えているのか。

答弁者 市長、教育長

1 幼児教育の質的向上及び地方創生について

- (1) 社会や時代の変化に対応した新たな幼児教育施設の新規参入において、特色のある幼児期の学びを推進できる法人に対して、インセンティブを付与する方向を検討する必要性をどのように捉えているのか。
- (2) 少子化を克服すべく、また、なりわいの創出という地方創生の観点において、社会や時代の変化に対応した新たな幼児教育施設を運営する企業や法人の誘致を市として進めていく必要性をどのように認識しているのか。

2 公立中学校等における部活動の在り方と地域移行について

- (1) 本市の公立中学校の休日の部活動の地域移行における課題は何だと分析しているのか。
- (2) 「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動」という観点において、本市の公立中学校における課題は何か。また、それを是正すべく、教育委員会としてどのような指導を行っているのか。
- (3) 公立中学校の部活動と、本市が目指す「確かな学力」、殊にも、自らの夢・希望・目標を実現するための基礎的・基本的な学力の習得と定着とのバランスをどのように図っているのか。

3 戦没者追悼式実施事業と平和教育について

- (1) 今後の本市における戦没者追悼式実施事業の課題をどのように認識しているのか。

- (2) 本市の学校教育における平和教育がどのように展開されているのか。また、平和教育における各家庭や地域との連携がどのように図られているのか。
- (3) 本市における平和教育の効果はどのように評価されているのか。